

日本学術会議 経済学委員会 経済学分野の参照基準検討分科会（第8回）
議事要旨

日時 2013年12月4日（水）13:30-13:50

17:30-18:30

（14:00-17:20 はシンポジウム）

場所 日本学術会議5階 5-A(2) 会議室

出席者 岩本委員長、奥野副委員長、多和田幹事、池尾委員、岡崎委員、筒井委員、久本委員

オブザーバー 北原和夫特任連携会員、樋口美雄経済学委員会委員長

（欠席 小西委員、広田委員、宮川委員）

資料

資料1. 前々回議事要旨（案）

資料2. 前回議事要旨（案）

資料3. 経済学分野の参照基準検討分科会の公開シンポジウム資料

資料4. 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準生物学分野

資料5. 経済学分野の参照基準における教育体系の取り扱いについて（案）

非公開資料

資料1. 6学会からの意見・要望

参考資料

資料1. 「大学教育の分野別質保証の在り方について（回答）」抜粋（第1部）

議題

1) シンポジウムについて

本日14時から開催の本分科会主催の公開シンポジウムに登壇予定の本多祐三、前原金一、八木紀一郎の各氏の同席のもと、岩本委員長から本日のシンポジウムの進め方について説明があった。続いて、パネルディスカッションの進め方についてモデレーターである奥野副委員長から説明があった。

13時50分から17時30分の間はシンポジウムのため中断し、17時30分から再開した。

2) 前々回議事要旨（案）の確認

前々回の議事要旨について岩本委員長から資料1に基づいて説明があり、審議の上これを前々回の議事要旨として承認した。

3) 前回議事要旨（案）の確認

前回の議事要旨について岩本委員長から資料2に基づいて説明があり、審議の上これを前回の議事要旨として承認した。

4) 参照基準（案）の検討

岩本委員長から非公開資料1をもとに、諸学会から参照基準原案に対して様々な要望が出されていることの説明があった。要望への対応としては、分科会の至らない点を指摘しているものは積極的に取り入れていく。考え方に相違のあるものは取り入れるか否かを今後検討することとし、その判断には、参照基準に対する分科会の考え方をまとめること、意見集約の成立可能性を見極めることとする方針の提案があり、これを了承した。

引き続き、岩本委員長から、参考資料1と資料5によって原案改訂作業の方針の説明があった。特に参考資料1の各分野の質保証の枠組みの本来の趣旨に戻って、これに沿った形で参照基準案の修正を行う必要があり、特に参考資料1の各学問分野に固有の特性の部分を参考にして、経済学分野の参照基準（原案）の経済学の固有の特性の部分を重点的に手直しする方針が示され、これを了承した。この方針に基づいて、修正の方向や修正点について議論がなされた。議論の中で、以下のような基本点が指摘された。

- ・大学におけるカリキュラムの自主性を尊重するため、原案の中の科目名ははずしたほうがよい。また基礎科目は固定しないほうがよい。
- ・原案における「標準的アプローチ」という表現は別のより適切な表現を用い、それにしたがってこの部分にかかわる内容もより柔軟に対応していく方がよい。

さらに、委員より以下のような意見があった。

- ・記述内容に科目名などで固定化すると、それが強制になるため、内容をあまり具体化せず抽象的な表現にしたほうがよい。
- ・単に経済学というより「社会科学における経済学」という位置づけをした方がよい。
- ・経済学はもともと政治経済学から出発している。それが政治学と経済学に分かれて、経済学独自の学問として発展してきたという視点も重要である。
- ・「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」というときは既存の完成された学問を意味するが、重要なのはミクロ・マクロの学問内容はダイナミックに変化しており、このような側面を重視するなら、「ミクロ経済学・マクロ経済学」という表現より、「ミクロ・マクロ的アプローチ」という表現が好ましい。

5) 今後の進め方について

原案の改定作業は本日の分科会で議論された修正の方向性を参考にして、岡崎委員と久本委員が全体の修正案を作成し、その修正案について委員の間での意見交換をメールで行う。そして岩本委員長と奥野副委員が修正案をとりまとめる作業を行う。この作業を12月末までに行い、修正案を1月の分科会（場合によってメール審議）に諮り、了承後に公表することを予定する。